

# 日本家庭医療学会会報

第61号

発行日 2007年11月28日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

## 第19回 医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー

### 第19回 医学生・研修医のための 家庭医療学夏期セミナー

#### 【プログラム】

開催日時 2007年8月4日(土)~6(月)  
場 所 クリアビューホテル(千葉県野田)  
参加者数 193名  
内訳 医師 78名  
学生 115名  
講師数 59名  
内 容  
セミナーテーマ 『患者さんと歩む医療』  
<1日目>  
■講演会  
「日本の家庭医、その将来は?!」  
「家庭医を目指して走り続けた10年間」  
<2日目>  
■セッション(選択性)  
■プレセッション  
■ポスターセッション  
<3日目>  
■セッション(選択性)

### 家庭医療を感じる3日間

筑波大学医学類3年 森永 康平

8月4~6日にかけて千葉県野田で行われた「第19回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー」のスタッフ代表をさせていただきました筑波大学3年の森永康平と申します。おおよそ丸々1年かけて準備してきた3日間のこのセミナーも何とか無事終えることができました。大きな問題もなく円滑に会を進めることが出来たのは参加者の皆様のご協力とスタッフの頑張りの賜物だと思います。本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

今年度は「患者さんと歩む医療」をテーマにプログラムを設定しました。初日の家庭医療の概略を掴むための講演、2・3日目の豊富なテーマの中から自分の学年や興味に合わせて選択し

(次のページにつづく)

### ~ この号の主な内容 ~

第19回医学生・研修医のための 家庭医療学夏期セミナーの報告	1	第3回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーの案内	22
第2回通常総会議事録	10	選挙のお知らせ	24
第1回日本家庭医療学会 理事会 議事録	11	第23回日本家庭医療学会学術集会の案内	25
第2回日本家庭医療学会 理事会 議事録	15	研究補助金公募について	26
平成20年度学会認定後期研修プログラム募集のお知らせ	17	リレー連載 診療所研修 「三重県立一志病院 パート1(卒前教育編)」	27
学会認定後期研修プログラム(バージョン1.0)の解釈について	18	生涯教育コーナー 「生涯教育(CME)に役立つツール」特集	29
第3回 家庭医療後期研修プログラム 指導医養成のためのワークショップの案内	19	患者教育用パンフレット作成メンバー募集	30
田坂賞公募のお知らせ	21	事務局からのお知らせ	31

たセッション、そして一番の目玉とも噂される深夜までの大懇親会は例年以上に盛り上がり、医学生からの普段は聞けない家庭医への疑問や意見と先輩家庭医達からの後輩への熱いメッセージが飛び交いました。

家庭医療に興味を持ち集まってくださった参加者、後輩を応援したいという熱い魂を持った講師の皆様のおかげでセミナー全体が温かいものになったと私自身一参加者として感じ、同時にこのセミナー

のスタッフになって本当によかった、心からそう思いました。準備期間は壁にぶつかったりすることも多かったのですが、セミナーが始まってみるとその苦労をふきとばす充実感を得ることが出来ました。沢山の素敵な先輩医・同志の仲間とも出会い、運営の仕事をする中ではこれでもかというほどの貴重な経験も積めました。これほど幸せで贅沢なことはありませんね。

夏期セミナーは平成と同時に始まり今年で19回目、来年は遂に20回目となります。当初は参加者が1桁、講師の数の方が多かったような年もあったようですが、近年では参加者・講師合計で230人近くもの方にセミナーに参加して頂けるまでになりました。家庭医療の認識や医学教育の変化、そして企画・準備担当が医学生にほぼ完全にシフトしたことからもセミナーの形態も徐々に変わってきました。

そして「20回目」に向け、早くも新実行委員長の渡部さんを中心に準備が始まりました。数回はもちろん10回以上セミナーに参加されているリピーターの存在や、かつて医学生として参加した方が講師となって戻って来ている事実のみを見てもこのセミナーの魅力・役割は十分推測出来るのではないのでしょうか。来年もリピーターは勿論、新しい参加者・講師によってセミナーはまた違う姿を見せてくれるでしょう。今年とは異なる立場から自分もそれを見てみたい。

まだまだ家庭医療との縁は続きそうです。



## Meet the experts



報告：旭川医科大学3年 名越 康晴

家庭医療学会理事の先生から若手家庭医に至るまで、合わせて21名の講師にご協力いただき、実際に家庭医療の第一線で活躍されている先生方と参加者が 実際に対話する場として行われました。日頃、医学生であってもなかなか家庭医の先生と接する機会が無く、初期研修医であってもまだ家庭医療というものを知らない方が多いのが現状です。そのため、参加者と先生との間で、「家庭医って何？」という初歩の話から始まり、実際の現場での話や、後期研修について、今後の勉強についてなど白熱した議論が展開されていました。司会者の「終了です」という言葉の後でもその熱は収まらず、夜の懇親会へと引き継がれていきました。



## 日本の家庭医、その将来は？！

講師：竹村 洋典

(三重大学医学部附属病院総合診療部 / 大学院医学系研究科 家庭医療学)

報告：岡山大学医学部医学科4年 西口 潤

私は、「家庭医」という言葉をよく耳にしましたが、「家庭医」という方がどのような仕事をし、開業医を何が違うのか全くわからない状態で参加しました。

そして、竹村先生の公演を聞かせていただき、Person-centered care を行う人ということ、という概念がはっきりわかりました。

まだポリクリを経験していないので、医学の勉強にのみ傾き、Academic medicine がすばらしいと思いがちですが、背景を含め、患者さんを中心に、患者さんの背景も含めて診るということの必要性を感じると同時に、そのような医師になりたいとも思いました。

将来、世間の需要もあるということもわかり、家庭医療学会夏期セミナーのオープニングとして、家庭医について、および、家庭医の将来についてわかりやすく、その後のセッションにも大変役立ちました。

## 家庭医を目指して走り続けた10年間

講師：草場 鉄周 (医療法人社団 カレス アライアンス北海道 家庭医療学センター所長 / 本輪西サテライトクリニック所長)

報告：近畿大3年 井上 裕次郎

先生のお話は初め人間の脳と心の関係に興味を持った経緯で医師を目指され、学生自身が自ら、今、行われているテュートリアルのようなケース・スタディー勉強法を実践なさって、医師になってからは教育をおこなうことで自らもそこから学習されているという内容でした。特に関心を惹かれたものは学生時代の自主学習する姿勢です。やりたいことがたくさんある学生生活において、自主



的に、いわば、学校から求められる以上に勉強するのは困難です。さらに、先生の診察能力を一医師としての向上なさろうとする姿勢、そして、自分自身だけでなく、先輩医師として、教育に携わってなさる姿勢は私に医師としての一つの理想の姿を教えてくださいました。



## アルコール依存症

— 酒は百毒の長 —

代表講師：松岡 角英 (船橋二和病院 / ふさのくに家庭医療センター) 高木 暢

報告：滋賀医科大学3年 植村 知華子

先生が実際に臨床で経験されたケースに基づいて、2人1組で医師役・患者役に分かれてロールプレイを行いました。アルコール依存症であることを自認しない患者さんに入院を勧めるのは本当に難しく、この病気の治療の難しさを感じました。また、アルコール依存症がどのように形成されていくか、アルコール依存を簡単に診断する方法なども教わり、自分たちがアルコール依存症かどうかを診断してみました。

このセッションを受けたことで、アルコール依存症は禁酒のできない意志の弱い人になる、という間違った先入観を払拭することができました。お酒に関する失敗談を話して皆で笑いあったりする時間もあり、あっという間の2時間でした。



## 予防医学をうまく行うには？

～行動医学的アプローチ～

講師：松下 明(奈義ファミリークリニック)

報告：愛媛大学医学科4年 渡部 真志

本セッションは「日常で明日から使える行動科学的アプローチ」を目的として行われた。まず行動変容に関する講義が行われた。初めて聞く知識であったが、簡潔にまとめられていたため頭を整理しながら知識を吸収できた。その後行われたロールプレイが知識の理解と浸透に非常に役立った。ロールプレイ前にはメンバーで対応を考え、ロールプレイ後には振り返りを行い、学ぶ環境について繊細に考えられたセッションだったと感じた。

最後に先生方のロールプレイを拝見した。患者の心の扉を開く瞬間が皆に伝わるものであった。特に相手から感情を引き出すための沈黙の使い方が非常に印象的であった。

今後とも体験した知識を行動に移せるように、常に意識して振り返りながら努力していきたいと心から思わされたセッションであった。

## 病の体験に迫る

代表講師：草場 鉄周(北海道家庭医療学センター 所長)

中川 貴史・泉 京子・松井 善典・

村田 亜紀子・加藤 光樹

報告：愛媛大学5年 藤原 崇志

このセッションでは、病気が二つあることを体験できた。まず同じシチュエーション(1型糖尿病研修医に対する定期診療)に対する二つの医療面接を見た。その違いを参加者に意見を求められたあと、解説があったが、それぞれの面接は病気を1. "Disease" 医師が学問として認識するものとしてとらえるか、それとも2. "Illness" 患者が認識するものとしてとられるかの違いといふことだった。医学部にいると病気を Disease としてとらえがちになると思うが、Illness というとらえ方があること、そして Illness としてとらえることで、同じ時間の診療でもより多くの情報が得られ、患者と共感できることが分かった。

## まる子の一生

～家庭医として女性を支援する～

代表講師：川尻 英子

(北中城若松病院・ファミリークリニックきたなかぐすく)

井上 真智子・安来 志保

報告：東海大学医学部6年 今村 奈緒子

このセッションでは家庭医療におけるウイメンズ・ヘルスに関する理解を深めました。女性の一生を通して、その時期に特有の女性ならではの問題に、身近な存在として家庭医がいかにして関わっていくかを、ロールプレイをしながら学びました。例えば、高校入学時に健康診断書を作成するために来院したまるこには、喫煙、飲酒、性感染症、避妊、子宮頸癌、摂食障害に関する予防や教育を行ったり、不眠に悩む48歳のまるこには更年期障害に対する指導を行いながら、家族背景、社会的背景を傾聴し、他の家族メンバーへの健康サポートや社会的資源活用を推奨することで介護の負担を軽減したりと、まるこだけでなくまるこの家族とも継続的に協調しながら介入する家庭医ならではのやりがいや楽しみを再確認しました。

## 帰ってきたおせっか医！

～家庭医らしい外来診療とは～

代表講師：菅野 哲也(王子生協病院 地域総合内科)

春田 淳志・村山 慎一・田 直子・

本村 和久・横林 賢一・渡邊 隆将・

斎木 啓子

報告：順天堂大学5年 杉谷 真季

田子ちゃんという女性の各ライフサイクルに起こった問題に対して、家庭医として介入していくというロールプレイを行いました。小児期・思春期・壮年期の3回のロールプレイを通し、家庭医は各ライフサイクルにおける予防を意識して診療してすることが必要だと再認識出来ました。それに加え、患者さまのライフスタイルと共に関わりあう家庭医にとって、continuity がいかに大切であるかを実感することも出来ました。

## 外来でよく見る こころの問題へのアプローチ



代表講師：中村 明澄 (筑波大学附属病院)  
前野 哲博

※中村先生が当日急用のため講師が前野先生に変更になりました。

報告：旭川医科大学 4年 藤原 美佐紀

身体の症状を訴えて外来にやってくる患者さん。どのような場合に、こころの問題を疑うべきなのか。こころの問題が濃厚なとき、どのように対応したらよいのか。本セッションではある女性のケースを用い、家庭医療の外来で遭遇し得る「こころの問題」についてロールプレイを通じて考え、その判断のポイントを学びました。さらに、命にかかわる疾患であるうつ病の診断と治療、医師としてのかかわり方も学ぶことができました。

## あなたの家に帰ろう

～住み慣れた家で死ぬということ～



講師：桜井 隆 (さくらクリニック)

報告：岡山大学医学部 6年 野中 慶佑

桜井先生のWSを経験するのはこれで3回目でしたが、今回は参加者から一名前にも出てもらい、桜井先生とその参加者との対話を通してのWSで、コミュニケーションワンダーランドとはまた違った面白さがありました。「あなたの家にかえろう」という合言葉のもと、在宅ケアを行っていらっしゃる先生と患者さん・患者家族との関わり方について、実際の現場でしか聞けない家族の声、患者さんの思い、やってみて初めて気づく注意点(急変時の対応)など、たくさんの興味深い点を知れたのが一番良かったです。参加者の意見・疑問点のもとに話をすすめ、気づきを与えるというスタイルを大事にされていて、活発なWSになったと思います。



## 発表が「楽しく！」なるプレゼンのコツ

～家庭医療を伝えてみよう～



代表講師：齊藤 裕之 (東京医科大学 総合診療科)  
佐藤 健一・岡田 唯男

報告：佐賀大学医学部医学科 3年 尾崎 真

“ポイントを最小限に絞る”

本セッションで学んだことは、何といたってもこの言葉に尽きると思います。

セッションは、事前に選ばれた参加者10人が、パワーポイントを使い家庭医療に対するイメージを3分間で発表し、会場の参加者全員が各々のプレゼンに対してフィードバックを行うという形式で行われました。プレゼンターはいかに自分の想いを聴衆に伝えるかを、フィードバックはプレゼンターがどうしたらもっと良いプレゼンが出来るかを真剣に考え、とても素敵な雰囲気の中でセッションが進んでいきました。プレゼンが終わった後にいただいた評価シートは、今後のプレゼンにおいてとても参考にされる資料となりました。

齊藤先生によるレクチャーでは、プレゼンの極意として“5 step Approach”を分かりやすく、かつ面白く教えていただきました。

実りの多いセッションを本当にありがとうございました。

## 鑑別診断を考えた身体診察法の学習



代表講師：大滝 純司 (東京医科大学総合診療科)  
錦織 宏・増田 浩三・菊川 誠・  
川島 篤志

報告：東京医科大学 5年 高見澤 光一

このセッションではグループ毎に医師役と患者役が設定され、患者役が疾患の特徴を演技しながら医師役が実際に身体診察を行い、患者役以外で鑑別診断がそれぞれどの程度の確率か考えるものでした。症例は2つあり、僕は患者役もやりましたが、実際に演技をすることも症状の勉強になると思いました。また、今まで身体診察はたまに行われる程度で、画像による診断

ばかりと感じていましたが、疾患によっては身体診察の方がずっと確実だということに驚きました。参考資料も多く用意していただき、身体診察を勉強する上でのモチベーションが高まりました。これから身体診察を学んでいく上でとても役に立つセッションだと思います。

## 家族志向型ケア

代表講師：菅家 智史 (福島県立医科大学 地域・家庭医療部)  
吉本 尚・清田 実穂

報告：島根大学医学部医学科4年 平岡 聡

本セッションでは、家庭医は患者さんの疾患だけを相手にするのではなく、精神的な悩みや不定愁訴も含めて、時には家族単位の話し合いを持って解決にあたるという、まさに家庭医の仕事の妙を垣間見ることができたと思います。

実際には、医師、夫、妻、娘役に分かれて家族面談を行いました。この面談を通して、家庭医が家族の間で交錯する思いを汲み取り、家族図を用いながら関係を再構築して治療に結びつけていくことがいかに有用であるかを学びました。さらに、個々の思いは夫婦や親子の間柄であっても複雑で、様々な誤解、遠慮、葛藤が見られたことから、家族面談を円滑に進める上で家庭医の様々な配慮が重要であることを理解することができました。

## 身体診察初級

講師：鈴木 富雄 (名古屋大学医学部附属病院 総合診療部)

報告：福岡大学医学部4年 山下 加奈子

このセッションではまず身体診察の長所と短所、そして足りないものを補うには何に気をつけたらよいかをディスカッションし、視、聴、打、触診それぞれにおけるポイント(視診はスタッフの方の模擬患者さんの様子から、聴診は心音でⅡ音分裂を聴くコツを実際に心音を聴きながら、打診では机を使って打診のポイントを、触診では身体の部位により触覚や温覚の敏感さが異なることなどを近くの方とペアになって確かめるなど)を学びました。各手技には慣れと訓練が必要で、何度も聴

いたり、口に出してみることで、感じ方も変わってくる、という先生の言葉が印象深かったです。

『実際に体験すること』がスキルはもちろんモチベーションも高めるということにおいても一番の方法だと今回のセッションを通して学べたように思います。

## プライマリケアで用いる漢方

講師：野上 達也

(富山大学大学院医学薬学研究部(医学)和漢診療学講座)

報告：筑波大学3年 手塚 幸雄

「東洋医学だけで病気を治すのは難しい。でも、西洋医学とは違ったアプローチができる」。いくつか症例を紹介していただいて、漢方の有用さが実感できた。

漢方の基本的な考え方を教えていただいたのに加えて、実際に生薬の見て触ってにおいを嗅



いで、煎じ薬を味わってみて、漢方をより身近に感じることができた。また、実際に漢方特有の診察方法である脈診や腹診、舌診も体験できた。五感をフルに使った、とても印象に残るセッションであった。

## 医療資源をあやつる

代表講師：池尻 好聡

(亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科)

大石 愛・小宮山 学・本山 哲也・  
鈴木 早苗・石井 春子・大谷 健

報告：福島県立医科大学1年 石井 惇也

医療の場では、患者さんの抱えている問題が多種多様となっている。医師の資源のみでは解決できないことも多々ある。そんなときでも、コメディカルの人と連携をとることで解決できることもある。そんなことを、ある症例を取り

上げたロールプレイを通して感じる事ができた。また、コメディカルの仕事がどのようなものなのかも知る事もできた。一番強く感じたことは、「医療というものは医者一人が生み出すものでない」ということだった。医師になったときに必要となる資質を身につけることのできた、とてもよいセッションであった。

### 膝と腰の診察の極意

講師：仲田 和正 (医療法人社団健育会 西伊豆病院院長)

報告：旭川医科大学 医学部医学科5年 伊東 哲宏

本セッションでは膝と腰の解剖学的な知識や診察法を学んだ。しかしながら単に講義形式でそれらを学ぶだけでなく、本セッションでは実際に自分の足や腰を触りながら解剖学を学ぶことで、より臨床的な知識へと昇華できるようにとの配慮がされておりました。また膝に水がたまった状態を再現するために先生ご自身の膝に生食を注射し皆に触診させるなど、随所に参加者を驚かせるような工夫があり大変興味深く



セッションを拝聴することができたと思います。テキストの方も充実しており、今後、臨床実習をするうえで非常に役に立つセッションだったと思います。

### 異文化コミュニケーション

講師：岡田 唯男 (亀田メディカルセンター 家庭医診療科)

報告：島根大学3年 森 里美

フルーツバスケットから始まった当セッション！日本の医学生という「文化」を共有する私たちですら様々な価値観をもつものである。個人は年齢・性別・宗教・趣味・社会地位など、多様な文化に所属している存在である。異分化に所属す

る相手に対して偏見をもつことを抑圧するのではなく、特徴をとらえそれを認め意識した行動をとることで、本来のコミュニケーションが達成されることを学んだ。「一回一回に診療が異分化コミュニケーションである。」この言葉を実感できる体験型セッションだった。医学生として、一個人として、普段の生活において他人と交流する中で実践し向上させていきたいと思う。

### ポスターセッションの様子



### 低学年向けセッション

代表講師：田頭 弘子

(The University of Manchester, Manchester Business School, 1年)

櫛笥 永晴・武者 幸樹子

報告：熊本大学4年 松村 伸

まず、研修医の先生が実際にどのような毎日を送っているのかを写真などを使って説明してくれました。そして、先生方がどうしてこの病

院を研修先に決めたのかなどを実際の体験を織り交ぜて話してくれました。その途中、良い医者像とは何か、そのためにどのような勉強が必要かをグループ毎に考え発表しました。僕はただ漠然と「できる医者」になりたいと思っていましたが、そのためにはどのような勉強方法があるのか、どのように情報収集をするのが良いのか、などとてもためになる内容でした。特に情報ツールの使い方を教えてもらいましたが、英語の勉強では欠かせないものとなっています。

## キャリアパス危機管理

講師：池田 正行 (医薬品医療機器総合機構)

報告：筑波大学 医学類5年 中村 伸彦

うつに悩まされたり、現場から離れる医師が問題になる中、現場での切実な悩みとして医師を辞めたいと思う心は果たして病気なのか？それとも誰もが一度は経験する通過儀礼なのだろうか？

池田先生のこれまでの歩みを振り返りながら医師辞めたい病について病歴呈示され、合間に医学生と研修医の small group discussion をはさみながら、この職業病とどう向き合うか認識を深めていきました。



苦勞して乗り越えてきた経験談や辛い状況でもユーモア感覚で捉え、笑いに変えていく先生の姿からは、医師として、また人生の先輩として大変貴重なものを教えて頂いたセッションでした。

## 家庭医のキャリアディベロップメント

代表講師：前野 哲博

(筑波大学附属病院 総合臨床教育センター/総合診療科)

河村 由吏可

報告：福島県立医科大学5年 森 有加

本セッションでは自分自身の将来を紙粘土で形作りながら、グループのメンバーとディスカッションをし将来について考えるというとても刺激的な時間を過ごした。その後、全体の中で各々の作品背景を説明する時間があり、みな食い入るように眺めていた。個性豊かな作品が並び、皆が将来に向けて着々と準備をしていく様が想像出来た。その後、前野先生、河村先生の家庭医になるまでのプロセスを伺い、自己の将来をより具体化する良い機会となった。

## 世界の家庭医療を語ろう

代表講師：佐野 潔, MD(仏)(American Hospital of Paris)

Christine Kistler, MD(米)

Steven Wagoner, MD(米)

Catherine Sauvaget, MD(仏)

報告：東邦大学6年 中野 弘康

本セッションでは、仏国で家庭医としてご活躍なさっている佐野 潔先生、米国より Christine Kistler 先生、Steven Wagoner 先生、仏国より Catherine Sauvaget 先生をお迎えし、ご自身の体験された研修や日々の臨床、医学教育などを中心にご講演いただきました。海外から先生をお迎えして各国の医療事情をじかに拝聴する機会はとても貴重で、参加者は興味津々と耳を傾けていました。参加者の中には先生方に英語で質問され、講演を自己の将来設計の一助とされた方もおられたようです。佐野先生は現在の日本の家庭医療が抱える問題点をわかりやすく説明され、参加者は今まで自らの抱いていた家庭医のイメージを再考する機会にも恵まれたのではないかと思います。

最後に、遠方から講演にいらして下さいました、先生方に心から感謝を申し上げます。



## 家庭医の家庭



代表講師：高屋敷 明由美

(筑波大学医学専門学群 医学教育企画評価室/  
総合診療科)

兒玉 末・松村 真司

報告：筑波大学医学類3年 森永 康平

様々な問題と向き合い、住民から厚く信頼される地域の医師。だが彼らはマスコミでは報道されないような、ありふれた問題に悩みも持ち、共に喜びや苦しみを分かち合いながら家族と生きている。このセッションでは3名の個性豊かな先生方がこれまでの各々の人生（医師になるまで、医師になってから）を振り返り、医業に加え「家族の一員として」「地域の一員として」生きていくことに関心を持った参加者の疑問・質問に答えていただいた。『家庭医として幸せになるのではなく、まずは私生活を充実させて「自分が幸せになる」ということ、そしてその経験が結果的に活力となり、また仕事を助けることになる』松村先生のおっしゃった言葉が心に残った。

## 家庭医だからこそ救急にしっかり対応 & 米国家庭医療武者修行列伝



講師：北垣 毅 (上尾中央医科グループ東川口病院 総合診療部部長)

報告：新潟大学医学部4年 松浦みのり

本セッションでは、北垣先生が実際に診察された患者さんを例に、医師と患者役に分かれて、どのような対応が必要かを学んだ。具体的には、高熱を出した小児の場合と頭痛患者の場合に対してそれぞれ考え得る鑑別疾患を挙げた上で、すぐに救急病院へ搬送を行わなければならないか、もしくは自らが治療を行うか、患者さんにはどのような言葉をかけるべきかを考えながらロールプレイを行った。そこで、家庭医療と救急治療がいかに密接に関係しているのかを実感したとともに、各ケースでどのような患者さんのサインを見逃してはいけないのか、対応をどうすべきかを詳細に教えていただいた。家族全体を診るというイメージの強い家庭医だが、救急医としての一面を新たに知ることができて、非常に魅力あふれる内容であった。

# Special Thanks!

～小林裕幸先生～

「準備から開催までの一年間、  
本当にお世話になりました！  
第20回セミナーも  
よろしくお祈りします！」

(スタッフ一同)



### 小林裕幸先生プロフィール

防衛医大卒

防衛医大病院総合臨床部講師

日本自転車競技連盟医科学委員兼

ナショナルチームのチームドクター

日本家庭医療学会理事(学生・研修医部会担当)

次回は・・・2008年8月9日(土)～8月11日(月)新潟県・シャトーテルー本杉にて行う予定です！

## 第2回通常総会議事録

### 1. 日時および場所

平成19年6月23日(土) 17:00～17:50  
損保会館 第1会場(大会議室)  
東京都千代田区神田淡路町2丁目9

### 2. 正会員

1,435名

### 3. 出席者数

541名(うち委任状出席者 431名)

### 4. 審議事項及び議決事項

- (1) 代表理事挨拶
- (2) 議長選出
- (3) 平成18年度事業・決算報告
- (4) 同年度監査報告
- (5) 常設委員会報告
- (6) ワーキンググループ報告
- (7) 若手家庭医部会報告
- (8) 学生研修医部会報告
- (9) 会員数報告
- (10) 平成19年度事業・予算について
- (11) 年会費の引き上げについて
- (12) 第23回(2008年)学術集会について
- (13) 議事録署名人選出の件
- (14) その他

### 5. 議事の経過と概容およびその結果

#### (1) 代表理事挨拶

会を代表して、山田代表理事が開会の辞を述べた。

#### (2) 議長選出

議長の選任について諮ったところ、奈義ファミリークリニックの吉本 尚氏より立候補があり、承認された。

#### (3) 平成18年度事業・決算報告

山田代表理事より、当法人の昨年度の事業報告および収支決算書について報告された。その中で昨年度は、会員増による収入の増加があっ

たが、後期研修プログラムの認定や、それに伴う会議等の開催、会員名簿作成による印刷費の支出などが、いずれも予算を上回ったことについて説明があった。

#### (4) 同年度監査報告

藤崎監事より、会計監査の結果について、適正に事務処理が行われていることが述べられた。学会の財政については、現在はマイナス要因が多く、若干、赤字体質が続いているので、体質改善が必要ではないかとの提案があった。

平成18年度事業・決算報告について、議場に承認を求めたところ、満場異議無く承認可決した。

#### (5) 常設委員会報告

各委員長または担当者により昨年度活動報告および今年度活動計画について説明があった。

#### (6) 若手家庭医部会報告

森理事(兼若手家庭医部会代表)より、昨年度活動報告および今年度活動計画について説明があった。

#### (7) 学生研修医部会報告

小林(学生研修医部会担当)理事より、夏期セミナーの準備状況について報告があった。

#### (8) ワーキンググループ報告

松下理事より、患者教育用パンフレット作成ワーキンググループの活動報告および今年度活動計画について説明があった。

#### (9) 会員数報告

山田代表理事より、5月31日時点の会員数について報告があった。

#### (10) 平成19年度事業・予算について

山田代表理事より、平成19年度の事業計画および予算について説明があり、満場異議無く承認された。

#### (11) 年会費の引き上げについて

山田代表理事より、学会活動の拡充を図るため、正会員の会費を8,000円から1万円とすることとするについて説明があった後、承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

#### (12) 第23回(2008年)学術集会について

山田代表理事より、第23回の学術集会の大会長は葛西龍樹副代表理事に決定し、平成20年5月31日、6月1日に東京で開催する予定であることが述べられた。

#### (13) 議事録署名人選出の件

議事録署名人として、吉本氏より副代表理事に依頼したい旨の提案があり、満場異議なく承認可決された。

#### (14) その他(本認定後期研修プログラムの登録料について)

山田代表理事より、後期研修プログラム認定作業自体をプログラム認定から発生する費用で

まかなうことを視野に入れた運営を進める方向で検討していること、プログラム責任者の会や認定委員会などの発足が予定されていることについて説明があり、それに先立ってプログラム登録料として現在認定されているプログラムに対し一律5万円をお願いすることが6月23日の理事会にて提案されたことが述べられた。

会場より、今回限りの費用となるのかとの質問が出された。それに対し、山田代表理事より、今回は登録に関する費用という形ではあるが、今後プログラム認定を続けるにあたり費用の発生は避けられないため、プログラム責任者の会やプログラム認定委員会で提案いただき、場合によっては年会費あるいは他の形で理解いただける範囲で進めていく考えもあることが説明された。

登録料の設定にあたり以上の説明があった後、会場に承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

---

## 平成19年度第1回日本家庭医療学会 理事会 議事録

日時：平成19年6月23日(土) 8:00～10:00

場所：ホテル聚楽 コンベンションホール 白鳥(中2階)

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹

理事 雨森正記、生坂政臣、大西弘高、岡田唯男、亀谷 学、草場鉄周、  
小林裕幸、白浜雅司、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、松下 明、  
三瀬順一、森 敬良、山本和利

監事 津田 司、藤崎和彦

(以上、敬称略)

理事会定数18名中18名(うち委任状出席0名)の出席により、理事会成立

### 1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

福士幹事より、5月31日現在の会員動向について報告があった。ワークショップ等の開催により、会員数が急速に増えていることが報告された。また、2年以上の会費滞納者が退会となったことにより、通常より退会者が多くなっていることが述べられた後、会員動向の内容について、承認された。

会員数：1,435名(うち、医師会員1,301名)

入会者：157名(2007年2月1日～2007年5月31日)

退会者：97名(2007年2月1日～2007年5月31日)

復帰者：4名(2007年2月1日～2007年5月31日)

未納者：126名(H16まで納入済)

会費未納率：31.8%(2007年5月31日現在)

## 2. 平成 18 年度事業・決算報告

山田代表理事より、平成 18 年度事業・決算報告があった。事業報告書への記載事項のうち事務局で十分把握できていない部分については、各担当理事より事務局に連絡することとなった。引き続き決算について各事業の収支に関する説明が述べられた。

## 3. 同年度監査報告

藤崎監事より、会計監査および学会運営の総括および評価が述べられた。会計については、各会計書類をもとにそれぞれの収支を確認した結果、適正に行われていることが報告された。ただ、財政面では繰越金の減少が大きく、費用がかかる事業については、会費収入以外の収入で賄うなどの工夫が提案されるなど、今後の体制を検討する必要があることが述べられた。

監査および事業報告・決算内容について、承認された。

## 4. 平成 19 年度事業・予算について

山田代表理事より、平成 19 年度事業計画について説明がなされた。

- ・認定プログラム指導医に関するニーズアセスメントに係る費用については、プログラム指導医養成ワークショップの費用として計上することとなった。また、森理事より次回の冬期セミナー開催場所が大阪に決定したことが報告された。
- ・事務局委託費について、プログラム認定等の事業に対する事務作業量が増大したことによる事務局委託費の増額が承認された。また、役員選挙にあわせて作成していた会員名簿は、昨今の個人情報保護法などを踏まえ、次回の役員選挙では、所属と氏名のみを記載した名簿を作成することとなった。
- ・決算報告の部分で検討課題として挙げた繰越金の減少について、今年度も収支差額として約 300 万円の赤字が見込まれることが述べられ、予算内容をもとに検討した結果、後期研修プログラムの認定及び運営に係る費用として、執行部より 1 プログラムあたり 50,000 円のプログラム登録料をお願いすることが提案された。この件について審議された結果、

理事会で承認され、総会で諮ることとなった。また、学術集会で開催されるワークショップについて、別途参加費を設定する案なども提案された。

- ・森理事より、総会資料をスライドだけでなく配布することについて提案があり、提案どおり資料を配布することとなった。
- ・松下理事より、患者教育用パンフレットの予算増資について提案があり、協議した結果、今年度の予算申請はすでに締め切ったことから今回は予算増資を行わないこととなった。

## 5. 常設委員会報告

### ◎編集委員会

藤沼理事より、次号は特集を予定していることが報告された。

### ◎広報委員会

松下理事より、会報の発行状況について報告があった。次号以降の生涯教育コーナーは、生涯教育委員会と連携して記事を作成する予定であることが報告された。

三瀬理事より、学会ホームページについて報告があり、市民用のページについては今年度中に、案を示して開始する意向であることが述べられた。

### ◎生涯教育委員会

伴理事より、11 月に天満研修センター(大阪)での開催が予定されている第 15 回生涯教育ワークショップの準備状況について報告があった。また、田坂先生メモリアル出版『Scene』が完成したことが報告された。

その他、会報での CME のリソース提供の件、出版の件についても委員会で継続して審議していくことが報告された。

### ◎研究委員会

山本理事より、学会賞の審査を明日行うこと、今年度も課題研究の公募を行うことが報告された。

また、研究初学者 WS を年 4 回、東京を中心とした会場で開催することを計画する予定であることが報告された。

### ◎倫理委員会

竹村副代表理事より、白浜理事から前回の理事会以降に3例の申請を検討し、本日の昼に倫理委員会を開催して検討を行う予定である旨の報告があったことが述べられた。

### ◎後期研修(プログラム認定)委員会・後期研修(FD)委員会

山田代表理事より、6月9～10日に開催された「第1回 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ」について報告がなされ、今後は、プログラム認定と指導医養成を分離し、講演自体は指導医養成を中心として進めていく予定であることが述べられた。また、ワークショップの開催日の午前中にプログラム責任者の会を開催することについても提案があった。

亀谷理事より、今後のプログラム責任者会議の位置づけや理事会との関係を整備し、組織や責任者会議、申請料・登録料・更新料などの資金面などについて記載されたプログラム認定に関する内規の原案を早急に作成する必要があることが述べられた。

次回のワークショップは、9月1～2日に東京で開催する予定であることが述べられ、葛西副代表理事より内容について説明があった。

西村理事より、研修医同士が集まる会の開催について提案があり、プログラム責任者の会で継続して検討することとなった。

### ◎若手家庭医部会

森理事より、第2回冬期セミナーの収支決算について報告があった。

第3回は2008年2月9～10日に、前回と同じトーコーシティホテル大阪にて、100名規模で開催する方向で準備をすすめていることが報告された。

学会全体としても取り組んだキャッチフレーズ「困ったら 一家の主治医 家庭医へ」を今後、公開のうえ使用していくこと、若手家庭医部会ロゴマークが決定したことについても報告された。

藤沼理事より、学会のロゴマークを利用したノベルティーについて提案があり、前回は時期尚早とのことで実現しなかったが、コストが

からなければプランニングを進めていくことが認められた。

### 6. ワーキンググループ報告

松下理事より、新規のWGを立ち上げたい場合の申請方法等について質問があった。

費用との兼ね合いから、今はプログラム認定作業を優先し、少し落ち着いた段階で、WGの立ち上げをしたほうがいいとの意見、予算および内容が適切である場合は、議論を行っても問題ないとの意見、学会発表やワークショップを開催するなどの段階を経た後、学会誌で発表し、考え方が共通していることを確認した後にWG立ち上げというプロセスが適切ではないかとの意見が出された。

### 7. 特別賞について(田坂賞と田坂奨励賞について)

山田代表理事より、メーリングリストTFCから田坂賞を残したいとの提案があり、執行部としてはTFCとリンクして「田坂賞」という名目で、学会に功績があった人や他の分野から家庭医療に貢献があった人を対象に賞を授与してはどうか、との提案がなされた。費用については、MLから是非出しても、年に1名でも2名でも表彰する枠組みを作っていきたいとの提案があることも報告された。

また、白浜理事より、「田坂賞」は専門診療科の先生方で家庭医とのリンクに貢献された方、これとは別に若手の中で家庭医として貢献されたに「田坂奨励賞」を授与してはどうかという提案があったことが述べられた。

枠については学会側で決定し、TFCから推薦された候補者を、学会側で協議のうえ決定する形にしてはどうかとの提案があった。また、学会賞等と混同しないようにとの要望があった。

これらを踏まえて、白浜先生に賞に対する指針を作っていただくよう依頼することとなった。

### 8. 第22回(2007年)学術集会の報告

山田代表理事より、開催中の第22回(2007年)学術集会について、事前登録が300名を越しており、会場が非常に狭いことから、理事の先生方への協力について要請があった。費用については、200万円以下の支出になるのではないかと

の中間報告があったことが述べられた。

#### 9. 第23回(2008年)学術集会について

葛西副代表理事より、第23回(2008年)学術集会の準備状況について報告があった。全体の構成は認定PGと臨床研究の二本立てで、日程は5月31-6月1日が第一候補、東京開催を予定していることが述べられた。

#### 10. 第24回(2009年)学術集会について

山田代表理事より、第24回(2009年)学術集会は、3学会合同で京都開催の予定であることが報告された。続いて津田監事より、会場は未定で、総合診療医学会はインタレストグループとして参加することが報告された。

山田代表理事より、当学会の大会長は、京都開催であれば、雨森先生にお願いしたいとの要請があった。

#### 11. 日本医学会への加盟について

山田代表理事より、日本医師会の総合医の構想について、プライマリケア学会、総合診療医学会といっしょに今月から各学会から2名ずつが代表として総合医の認定ということを進める会に出席することが報告された。医学会加盟を申請するタイミングとしては非常に良いが、3学会協調して進めていくべきとの意見もあり、また日本医師会の協議をうけて、3学会の話し合いの中では、3学会の合併の話も出てきていることも報告された。

加盟申請に対して協議され、調和を前提にして、会員の不利益にならないように進める方向となった。

#### 12. 名簿廃止について

(「4.平成19年度事業・予算について」を参照)

#### 13. その他

- ・山田代表理事より、学術集会中に行われる後期研修プログラム認定証の授与式について、遠方の方を考慮し、2時前に授与式を行うこととなったことが報告された。
- ・竹村副代表理事より、学会内ではプライマリケアとか総合診療とか総合医といった言語ではなくて、家庭医、家庭医療という言葉を使うべきではなかという意見が会員から寄せられたことが報告された。このことについて、協議された結果、学会として定義は決めているので、当然使うことが望ましいが、会員に対して統制はできないとの結論に至った。
- ・竹村副代表理事より、理事会MLの内容が外部に流れていたことが報告され、注意がなされた。
- ・葛西副代表理事より、シンガポール WONCA への参加について呼びかけがあった。
- ・大西理事より、インドネシアからの留学生の受入れについての協力の呼びかけがあった。
- ・山田理事より、国保中央会からの後期高齢者についてのアンケート回答者を会員から30名程度推薦してほしいとの依頼があったことが報告された。伴理事より、報告時に、日本家庭医療学会が協力したアンケート調査ということになるので、少し慎重に行うようにとの要望があった。
- ・竹村理事より、次回の理事会開催についてお知らせがあった。



# 平成 19 年度 第 2 回日本家庭医療学会 理事会 議事録

日 時:平成 19 年 8 月 5 日 (日) 8:00 ~ 11:00

会 場:クリアビューホテル 4F 中会議室 446

出席者:代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹

理 事 雨森正記、生坂政臣、大西弘高、岡田唯男、亀谷 学、草場鉄周、小林裕幸、  
白浜雅司、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、松下 明、三瀬順一、森 敬良、  
山本和利

監 事 津田 司、藤崎和彦

(以上、敬称略)

理事会定数 18 名中 18 名(うち委任状出席 0 名)の出席により、理事会成立

学生研修医部会の森永代表より、夏期セミナーの参加者が 190 名を超えたことが報告された。また、次回夏期セミナーは、越後湯沢(新潟)にて 8 月 9-11 日に開催する予定であることが述べられた。

## 1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、7 月 25 日現在の会員動向について報告があった。ワークショップ等の開催により、6 月 1 日から 7 月 25 日までの 2 ヶ月弱の間に 100 名の新入会員を迎えたことが述べられた後、会員動向の内容について、承認された。

会員数: 1,536 名(うち、医師会員 1,395 名)

入会者: 100 名(2007 年 6 月 1 日~2007 年 7 月 25 日)

退会者: 1 名(2007 年 6 月 1 日~2007 年 7 月 25 日)

未納者: 106 名(H16 まで納入済)

会費未納率: 37.3% (2007 年 7 月 25 日現在)

## 2. 常設委員会・WG 報告

### ◎生涯教育委員会

雨森理事より、第 15 回生涯教育ワークショップについて、10 日はメイン講演、11 日の WS は 3 回に分けて 7 個ずつ、21 の WS を行う予定であることが報告された。11 日の WS について会員を対象に公募した結果、非常に多くの応募があり、かつ面白いものばかりで選ぶのが大変であった旨が述べられた。

### ◎患者教育用パンフレット作成 WG

松下理事および患者教育用パンフレット作成 WG メンバーの坂本先生より、患者教育用パンフレットの作成案、進捗状況について説明があった。第 15 回家庭医のための生涯教育 WS にて、協力者の募集や周知のためのポスター作成を計画していること、メンバーとして医学生に加わってもらうことなどを考えている旨が述べられた。

### ◎臨床研究初学者のための勉強会 WG

山本理事より、臨床研究初学者のための勉強会を WG とすることについて提案があり、承認された。

## 3. 学会の合同について

山田代表理事より、総合医に認定について協議を進めていく上で、日本家庭医療学会、日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療学会の 3 学会合併について、日本医師会と 3 学会代表者での協議が進められていることが報告された。このことについて、それぞれの学会の理念や使命には若干の差異はあるものの、3 学会に重複して会員となっている方も多し事実もあり、現在力を合わせる事が重要だという認識から、合併のための協議を進めていくことが承認された。会員に対しては、文書で通知することとなり、合併についての意見を募り、意見があった場合は理事会で協議することとなった。また、合併後の年会費については、10000 円で提案することとなった。

#### 4. 後期研修プログラム二次募集の申請について

平成19年度後期研修プログラムの二次募集を行った結果、8プログラムから申請があり、審査が行われた。その結果、新たに7プログラムが認定され、前回とあわせて67プログラムが認定されたことが報告された。また、学会WEBサイトへの認定プログラムの内容掲載について、現在の掲載内容に加え、プログラム内容が掲載されたWEBサイトを保有している場合はURLのリンクも掲載することとなった。

#### 5. プログラム責任者の会立ち上げについて

山田代表理事より、プログラム責任者の会の立ち上げおよび9月1日に第1回を開催することについて提案があった。プログラム責任者の会では、今後の活動方針に関する協議を中心に行う予定である旨の説明がなされた。また、カリキュラム内容および研修項目のリストについては、バージョン1以降ははっきりしたものが提示されていないことから、プログラム責任者の会で研修項目内容についての例を提示する考えであることが述べられた。

また、プログラム認定関連の事業について、執行部の負担を減らすことから、執行部以外の委員メンバーも含めて構成する案が出された他、来年度を含めた長期スケジュールの立案、内規の作成を早い時期に進める必要が求められた。

#### 6. 特別賞について

白浜理事より、前回より継続審議となっている田坂賞の進捗状況について報告があった。検討された結果、今後は白浜理事を中心とした田坂賞選考委員会を設置し、選考方法や対象年齢等の基準、プロセスなどについて明確化する作業を進めていくこととなった。

#### 7. 第22回(2007年)学術集会の報告

白浜理事より、6月に開催された第22回学術

集会について報告された。また、西村理事からは、託児室についての報告がなされた。

#### 8. 第23回(2008年)学術集会について

葛西理事より、次年度学術集会の開催概要案として、5月31日～6月1日に東京で行う方向で調整していることが報告された。内容は、家庭医療の研究に焦点を当てたプログラム構成を検討していることが述べられた。会場については、大西理事より東京大学の施設を検討いただけることとなった。

#### 9. 第24回(2009年)学術集会について

第24回学術集会(3学会合同開催)の大会長について、前回候補として名前が挙がっていた雨森理事に決定した。

#### 10. 出版物の発行について

生涯教育委員会より、日本家庭医療学会の若手会員が予防医療に関して冊子をまとめた「PATIENT-CENTRED PREVENTIVE MEDICINE」の出版についての依頼が出され、プリメド社が出版社の候補として挙げられていることが述べられた。著作権の問題や、生涯教育委員会で編集後に、日本家庭医療学会監修として出版してよいか等について議論がなされ、継続審議となった。

#### 11. 学会事務局所在地の移転について

学会事務局の委託先である有限会社あゆみコーポレーションが移転するに伴い、当学会事務局の所在地が変更される経緯が述べられ、主たる事務所を次のとおりとする旨を諮ったところ、満場異議なくこれを承認した。

当学会は、主たる事務所を大阪市西区江戸堀一丁目22番38号三洋ビル4F有限会社あゆみコーポレーション内に置く。

なお、事務所移転の日は平成19年9月1日とする。



## 平成20年度学会認定後期研修プログラム募集のお知らせ

日本家庭医療学会認定後期研修プログラム（バージョン1.0）に則って研修を実施する平成20年度後期研修プログラムを募集します。

申請受付締切日：平成20年1月15日（火）

日本家庭医療学会認定後期研修プログラム（バージョン1.0）

[http://jafm.org/html/pg01\\_0\\_060316.pdf](http://jafm.org/html/pg01_0_060316.pdf)

「平成20年度学会認定後期研修プログラム申請書」（ワード文書／100KB）

<http://jafm.org/pgm/pgm08.doc>

申請から認定までの流れは下記の通りです。

### 申請から認定までの流れ

申請

所定の申請書に必要事項を記入のうえ、学会事務局に申請して下さい。

※ プログラムに関する解釈については、学会認定後期研修プログラム（バージョン1.0）の解釈をご参照ください。（※次ページに掲載）

※ 申請は、所定の申請書のみを用いて下さい（本申請書以外の申請書類は添付不可）。

書類審査

平成20年2月上旬に開催予定の理事会にて、学会の家庭医療後期研修プログラムをもとに、申請された研修プログラムを審査します。

審査結果通知

審査結果通知 認定審査結果は、2月中旬に通知し、認定されたプログラムには認定証を発行します（認定された場合、登録料として5万円が必要となります）。

認定期間は、平成20年4月1日～平成23年3月31日までの3年間です。

申請・認定に関するお問い合わせは、  
メールまたはファックスにて学会事務局へお願いいたします。

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会 事務局  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F  
あゆみコーポレーション内  
TEL：06-6449-7760（学会専用）  
FAX：06-6441-2055（あゆみコーポレーション共用）  
E-mail：jafm@a-youme.jp  
ホームページ：http://jafm.org/

# 学会認定後期研修プログラム(バージョン1.0)の 解釈について

平成19年11月11日現在

## ◆学会認定後期研修プログラム間での移籍について

後期研修の途中でのプログラムの移籍は、原則として認められないが、以下の条件に合う場合は、学会の承認の後、それを認めることとする。

- (1) 研修プログラムが廃止された場合
- (2) 研修プログラムの認定が更新されなかった場合
- (3) 研修医にやむを得ない理由がある場合

なお、この場合は、移籍届出書を研修医、前研修プログラム責任者、新研修プログラム責任者の連名で学会に提出すること。

## ◆プログラムの中断について

以下の場合、プログラムを中断し、のちに、そのプログラムへの復帰を許可する。

- (1) 病気
- (2) 産休(施設が定める期間)
- (3) 育児休(施設が定める期間)
- (4) その他の理由(家族の問題など)

プログラムを中断する場合は、その研修プログラム責任者は学会にプログラム中断届出書を提出し、学会の許可が必要となる。この場合、事後に許可する場合もある。

## ◆プログラム認定期間の解釈

- ・プログラム認定の期間は3年とする。

## ◆研修期間についての解釈

- ・後期研修期間が3年を超える場合、そのプログラムが定める研修の最終年度を以って、研修プログラム終了とみなす。

## ◆初期研修2年間について

- ・これまでは厚生労働省による2年間の新医師臨床研修を初期研修としていたが、当分の間、医師を養成する2年以上の臨床研修で学会が認定したものはその限りではない。

## ◆診療所研修についての解釈

診療所：家庭医(最低限、成人、小児、在宅医療を提供していて、地域の保健や福祉にもかかわる医師)が指導医として存在している診療所・小病院

期間：原則6ヶ月(ただし、特別な状況においては、平成21年のプログラム認定までは、1ヶ月以上のブロック研修および残りを分割しての研修も可能)

◆プログラム責任者、家庭医療指導医についての解釈

平成 19 年度認定：・プログラム責任者・家庭医療指導医とも、日本家庭医療学会員で、これまでの家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップに参加していること。

平成 20 年度認定以降：・日本家庭医療学会員であること

- ・卒後 6 年目以降
- ・日本家庭医療学会主催の指導医養成講座を受講していること
- ・家庭医療指導医としての「教育方針」に関するレポートを提出

◆望ましい研修項目についての解釈

望ましい研修項目：・外科、産婦人科などの項目は、「外科領域」、「産婦人科領域」などの診療内容をさす。

- ・人材(家庭医療指導医など)は全ての名前を挙げていただく。
- ・プログラム内容は、当面は「研修期間と場面」のみを記述し、将来的にはブループリントを提出する。
- ・プログラムを変更する場合には、「申請内容変更届出書」をダウンロードして学会事務局に申請し、これを学会が審査する。

◆内科研修についての解釈

内科(臓器別内科でないこと)、総合(一般)内科、総合診療科での研修が行われる必要がある。

ただし、家庭医の養成に必要と認められる範囲で一部を臓器別内科研修にて行ってもよい。

◆小児科研修についての解釈

3ヶ月一括でのブロック研修が望ましいが、月単位での分割も可能。

## 第3回 家庭医療後期研修プログラム 指導医養成のためのワークショップ

◆ 期 日：平成19年12月1日(土)～2日(日)

1日 13:00～18:00 / 2日 8:30～12:00

◆ 場 所：TKP銀座ビジネスセンター カンファレンス8A

〒104-0061 中央区銀座6-17-2 ビルネット館2

TEL：03-5614-6688

(メトロ日比谷線「東銀座駅」徒歩3分、都営浅草線「東銀座駅」

徒歩3分、都営大江戸線「築地市場駅」徒歩4分、東京メトロ

「銀座駅」徒歩8分、JR線「新橋駅」徒歩10分)

<http://www.tkpginza-bc.net/access.shtml>

募集終了しました

- ◆ **対象者**：現在家庭医療後期研修プログラムを運営している指導医、または将来立ち上げを計画している指導医(学会員に限る\*)
- \*非学会員の方は当日入会手続きをしていただけます。
  - ※ プログラム責任者については代理参加も可。但し代理の場合も会員であることが条件です。
  - ※ 家庭医療後期研修プログラムのこれまでの状況を存じない方は、**学会認定後期研修プログラム(バージョン1.0)**をダウンロードしてご持参ください。  
[http://jafm.org/html/pg01\\_0\\_060316.pdf](http://jafm.org/html/pg01_0_060316.pdf)

- ◆ **参加費**：8,000円(どちらか1日のみ参加の場合は5,000円)  
懇親会費(軽食での情報交換会)：5,000円(費用は、当日受付にてお支払いください)

- ◆ **内容**：下記の通りとなります。

■ **12月1日(土)**

1. 開会挨拶(竹村副代表理事)

2. テーマ「家庭医療における外来診療教育モデルを学ぶ」

講師・ファシリテータ：

- 藤沼康樹 先生(日生協医療部会家庭医療学開発センター 所長)
- 西村真紀 先生(あさお診療所)
- 安来志保 先生(日生協医療部会家庭医療学開発センター フェロー)
- 高橋 慶 先生(同センター フェロー)
- 森永太輔 先生(同センター フェロー)
- 原 穂高 先生(同センター フェロー)

家庭医療における外来診療は、医学的診断治療だけでない要素を多く必要とし、教育上もそれらの要素に一定精通している必要があります。

今回は、1500年代のPareから始まり、EngelのBiopsychosocial approach、現代家庭医療学の結晶である、The Clinical Hand、Patient Centred Clinical MethodさらにはMindful Practiceなどを学びつつ、各施設での外来診療教育の革新につながることを目指します。

3. 懇親会(軽食での情報交換会)

■ **12月2日(日)**

1. テーマ「EBMの教育と研究」

講師：Jennifer Anne Doust(オーストラリア、クイーンズランド大学家庭医療学科准教授)  
通訳・進行補助：葛西龍樹(副代表理事、福島県立医科大学 地域・家庭医療部教授)

学会認定の後期研修プログラムでは、「家庭医を特徴づける能力」の中に「効率的な医療」としてEBMの実践を定めています。家庭医療とEBMのエキスパートとともに、家庭医療の教育でエビデンスを「使うこと」と「生み出すこと」をどう教えるのかについて考えましょう。

2. 閉会挨拶(山田代表理事)

<http://jafm.org/edu/20071201.html>

## <田坂賞公募のお知らせ>

2007年12月1日～31日まで、第一回 田坂賞推薦の公募をします。

家庭医療学会会員、TFC会員の方は、一人一名の推薦(他薦のみ)ができます。  
ぜひ下記の規定に従って田坂賞にふさわしい方を、以下の公募ページの応募フォームに必要なことをご記入の上ご推薦ください。なお公募ページ以外からの推薦はできません。

→公募ページ :[http://www.smb.net/~tasaka\\_award/](http://www.smb.net/~tasaka_award/)

なお、この公募ホームページを開くには以下のIDとパスワードが必要です。

ID: tasaka

PW: award

また会員資格の確認のため、TFC会員の方はMLへの登録メールアドレス、家庭医療学会会員は、家庭医療学会会員番号を応募フォームに記入して下さい。

## 田坂賞規定

1. 目的：TFCMLという2500人以上の家庭医、専門医を日常的につなぐMLを一人で管理され、家庭医療の発展に多大な貢献をされながら、49歳という若さで急死された田坂佳千先生の業績を忘れず、先生の目指された家庭医と専門医の相互理解と連携による、日本の家庭医療の質向上、普及、生涯教育に貢献された方を表彰するための賞。
2. 内容：田坂賞の盾と副賞(旅行券)(毎年の費用5万円はTFCML関連の事業で与えられた基金から日本家庭医療学会に寄付されるものを充てる)
3. 授与方法：毎年家庭医療学会総会において、田坂賞受賞者1人の表彰式を行なう。  
なお家庭医療学会総会の中で、受賞者による受賞記念教育講演またはWSをお願いする。
4. 選考基準：家庭医と専門医の相互理解と連携による、日本の家庭医療の質向上、普及、生涯教育に貢献をされた方。(研究を主として選ばれる日本家庭医療学会賞とは区別する)
5. 選考方法：
  - (1) TFC会員、家庭医療学会員から公募による推薦を受け、家庭医療学会内に設置する「田坂賞選考委員会」で最終決定する。
  - (2) 田坂賞選考委員会は、日本家庭医療学会理事4(うち1人が委員長を兼ねる)、TFC幹事会3、学識経験者2、オブザーバー1(日本家庭医療学会代表理事)で構成する。任期は家庭医療学会の理事の任期に合わせるものとする。
  - (3) 田坂賞対象者は、家庭医療学会員、家庭医療の専門家であることは問わない。家庭医以外でも、家庭医療の発展、普及、教育に貢献された方は選考対象に含める。
6. この賞の期限は設けない。家庭医療学会が他学会合併する場合やTFCMLからの寄付継続が難しくなった場合は、その時点で継続するかどうかを検討する。

### 第1期田坂賞選考委員会委員名簿

日本家庭医療学会担当理事	1名(選考委員長)	白浜雅司
日本家庭医療学会理事	3名	雨森正記、松下明、山本和利
TFC幹事会	3名	中西重清、藤原靖士、早野恵子
学識経験者	2名	大滝純司、高橋裕子
オブザーバー	1名	日本家庭医療学会代表理事 山田隆司

## 第3回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーのお知らせ

今年も日本家庭医療学会・若手家庭医部会主催で、第3回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーを2008年2月に開催いたします。このセミナーは、若手家庭医が施設の枠を超えて家庭医療を学習し、お互いの情報を共有し、若手家庭医同志および家庭医療を実践している先生との交流をもつ機会を提供することを目的として開催しております。今回は、「継続性にこだわる」を全体テーマとして開催いたします。参加者の方は、2日間にわたって2つの講演ならびに4つのワークショップを選んで参加していただきます。1日目終了後の懇親会では若手家庭医の情報交換や絆を深める機会となります。

定員を100名としておりますが、定員となった時点で申し込みを締め切りますので、どうぞお早めにお申し込みください。

みなさま、ふるってご参加くださるようお願いいたします。

- ◆ 日 程 : 2008年2月9日(土)13時開始～2月10日(日)13時終了  
(※開始・終了時間は予定)
  - ◆ 会 場 : トーコーシテイホテル梅田  
〒530-0054 大阪市北区南森町1-3-19  
TEL.06-6363-1201 / FAX.06-6363-5078  
地下鉄谷町線 東梅田駅→南森町駅 下車 地下鉄2号出口すぐ
  - ◆ 参加対象 : 若手家庭医(家庭医をめざし後期研修を行う医師。卒後3-10年目)を対象としますが、家庭医をめざす初期研修医およびプライマリケアに従事する医師の参加も歓迎いたします。
  - ◆ 定 員 : 100名
  - ◆ 参加費用 : 未定
  - ◆ お申し込み開始日:平成19年12月10日より若手家庭医部会ホームページ上  
(<http://jafm.org/wakate/>)にて
  - ◆ お問い合わせ・連絡先 :  
冬期セミナー事務局E-mail : [seminar-wakate@a-youme.jp](mailto:seminar-wakate@a-youme.jp)
- ※ 開催日・場所の変更はございませんが、時間や内容の変更の可能性がございます。  
最新情報につきましては、若手家庭医部会ホームページ上(<http://jafm.org/wakate/>)でご確認ください。

### \*内 容\*

講演(開会講演、閉会講演)は全員参加

ワークショップは1日目2つ、2日目2つのワークショップを選択して参加

1日目(2月9日(土))

★開会講演:「タイトル未定」(100名)

講 師: 揖斐郡北西部地域医療センター

吉村 学 氏

★選択ワークショップ※1日目は1・2コマ同内容(各20-40名)

ワークショップ1.「家庭医療の理論的基盤としての身体心理社会モデル」

講師：医療生協家庭医療学レジデンスー東京	横林 賢一 氏
医療生協家庭医療学レジデンスー東京	斎木 啓子 氏
医療生協家庭医療学レジデンスー東京	渡邊 隆将 氏
医療生協家庭医療学レジデンスー東京	林 佐保里 氏
指導医：日生協医療部会家庭医療学開発センター	藤沼 康樹 氏

ワークショップ2.「家族志向のケア」

講師：奈義ファミリークリニック	吉本 尚 氏
奈義ファミリークリニック	佐古 篤謙 氏
指導医：奈義ファミリークリニック	松下 明 氏

ワークショップ3.「予防と行動変容」

講師：堺市立堺病院	北村 大 氏
本田診療所	高松 典子 氏
指導医：竹中医院	竹中 裕昭 氏

★夕食・懇親会

2日目(2月10日(日))

★選択ワークショップ(1コマ目下記3つの中から1つ選択)(各20-40名)

ワークショップ4.「これで安心！親と子のケア」

講師：川崎市立多摩病院総合診療科	大橋 博樹 氏
川崎市立多摩病院総合診療科	武者幸樹子 氏
川崎市立多摩病院総合診療科	櫛笥 永晴 氏
指導医：川崎市立多摩病院小児科	鶴岡純一郎 氏

ワークショップ5.「楽々介護入門」

講師：北中城若松病院	川尻 英子 氏
------------	---------

ワークショップ6.「訪問診療」

講師：三つ葉在宅クリニック	船木 良真 氏
---------------	---------

★選択ワークショップ(2コマ目下記3つの中から1つ選択)(各20-40名)

ワークショップ4.「これで安心！親と子のケア」(1コマ目と同一内容)

ワークショップ7.「EBM」

講師：揖斐郡北西部地域医療センター	西川 武彦 氏
-------------------	---------

ワークショップ8.「タイムマネジメント」

講師：大福診療所	朝倉健太郎 氏
寿都診療所	中川 貴史 氏
北海道家庭医療学センター東室蘭クリニック	八藤 英典 氏

★閉会講演：「タイトル未定」(100名)

講師：北足立生協診療所	井上真智子 氏
-------------	---------

<http://jafm.org/winter/index.html>

## 4月に役員選挙があります

特定非営利活動法人日本家庭医療学会では、現役員の任期が平成20年6月30日付となりましたため、定款第13,14,15条および役員選挙規則にもとづいて、本年4月に役員選挙を行います。

役員選挙規則により、山田代表理事から4名の会員の方が選挙管理委員として依託を受けました。

**選挙管理委員:**大橋博樹、齊藤裕之、福士元春、本村和久(敬称略)

**選挙権者(投票できる人):**

学生会員も含む全会員です。ただし定款第7条により、会員となるには理事会の承認を得る必要があります。現在、入会申込があり年会費の入金があれば便宜的に会員としての活動(会誌・会報の送付、メーリングリストへの加入など)を開始していただいておりますが、選挙権は平成20年2月10日の理事会で入会が承認された方(平成20年1月31日までに入会申込および年会費を入金された方)までに限ります。

**被選挙権者(候補者となれる人):**

選挙権者の条件を満たす正会員で、平成20年7月1日時点で満65歳未満の人です。

平成20年2月11日時点で会員名簿(氏名・ふりがな・所属機関名・所属都道府県を掲載)を作成します。異動や訂正のある方は、平成20年2月10日までに学会事務局へお知らせ下さい。異動届は学会のWEBサイト(<http://jafm.org/html/todoke.html>)からできます。

**今後の主な選挙日程(予定):**

平成20年

- |          |   |
|----------|---|
| 2月下旬     | 選挙公告、立候補および推薦受付開始(会報第62号に同封予定)                |
| 3月15日(土) | 立候補および推薦締切                                    |
| 3月20日(木) | 被選挙者名簿送付                                      |
| 4月1日(火)  | 投票受付開始  |
| 4月15日(火) | 投票締切(必着)                                      |
| 4月下旬     | 開票  |
| 5月31日(土) | 新役員招集(新代表理事互選など役職の決定)<br>…第23回学術集会にあわせて(東京にて) |
| 7月1日(火)  | 新役員就任   |
| 8月10日(日) | 新理事会開催…夏期セミナーにあわせて(新潟にて)                      |



## 第 23 回日本家庭医療学会学術集会

◆テーマ：家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～

◆会 期：平成 20 年 5 月 31 日（土）～平成 20 年 6 月 1 日（日）

◆会 場：東京大学 所在地：東京都文京区本郷 7-3-1

◆大会長：葛西 龍樹（福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授）

◆事務局：第 23 回日本家庭医療学会学術集會事務局

（日本家庭医療学会 常設事務局内）

〒 550-0002

大阪市西区江戸堀 1 丁目 22 番 38 号 三洋ビル 4F

あゆみコーポレーション 内

TEL：06-6449-7760 FAX：06-6441-2055



◆内 容：

### ■リサーチ・シンポジウム

「家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～」

家庭医療の研究をする意義と楽しさについて世界のエキスパートが語ります。

シンポジストの発表終了後、フロアも含めてディスカッションします。

シンポジスト（予定）：

Prof Chris van Weel……………(WONCA 会長、オランダ)

Prof Chris Del Mar……………(Bond 大学医学部長、オーストラリア)

Prof Walter Rosser……………(WONCA 研究ワーキンググループ代表、カナダ)

Prof Domhnall MacAuley……………(BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)

Prof Goh Lee Gan……………(WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)

Prof Cindy Lam……………(香港大学家庭医療科主任、中国)

### ■リサーチ・ワークショップ

初級「診療からリサーチ・クエスチョンへ」

日常診療からどうやって研究アイデアを見つけ出すかのステップを学びたいレベル。

中級「リサーチ・クエスチョンから研究へ」

研究アイデアから具体的に研究をどう進めるかを学びたいレベル。

上級「研究から論文出版へ」

研究結果を論文として学術雑誌に投稿する技術を学びたいレベル。

### ■公開シンポジウム

「リサーチと世界の家庭医療」

世界の家庭医療の発展とそのなかで研究が果たしてきた役割について世界のエキスパートが語ります。シンポジストの発表終了後、フロアも含めてディスカッションします。

シンポジスト（予定）：

Prof Chris van Weel……………(WONCA 会長、オランダ)

Prof Chris Del Mar……………(Bond 大学医学部長、オーストラリア)

Prof Walter Rosser……………(WONCA 研究ワーキンググループ代表、カナダ)

Prof Domhnall MacAuley……………(BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)

Prof Goh Lee Gan……………(WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)

Prof Cindy Lam……………(香港大学家庭医療科主任、中国)

- 会長講演  
「日本の家庭医療の課題」  
葛西 龍樹(福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)
- 一般演題(口演、ポスター)
- 公募ワークショップ
- 学会認定研修施設紹介(ポスター)

## 平成 19 年度日本家庭医療学会 研究補助金 公募要項

### 1. 研究テーマ

#### (1) 課題研究：「高齢者医療と家庭医(在宅も含む)」

近年、家庭医療は急速に普及してきているが、その認知はまだまだ十分とは言えない。特に、医療の受け手である国民が、家庭医療をどのようにとらえ、どのようなサービスを提供してほしいと思っているのかという点についての情報がまだまだ不足している。

このような背景を踏まえ、国民の家庭医療への理解およびニーズに関する研究を募集する。

#### (2) 自由研究：家庭医療に関するものであればテーマは自由。

### 2. 交付の対象

本学会の会員が研究代表者である個人または研究グループで、本学会の研究委員会および理事会で選考されたもの。

### 3. 交付の条件

- (1) 他の団体などから同一の研究について補助金を受けていないこと。
- (2) 研究成果については本学会会長あて研究報告書、収支決算報告書を提出すること。
- (3) 原則として交付後3年以内に日本家庭医療学会誌『家庭医療』に原著本文を投稿すること。
- (4) 交付金は1件20万円を上限とする。

### 4. 選考

採択は課題研究、自由研究合わせて3件以内とする。本学会研究委員会で予備選考を行った後、理事会で採択を決定する。

### 5. 申請書類の提出

補助金の交付を希望する者は、日本家庭医療学会事務局宛に平成20年1月31日(木)(消印有効)までに申請書を提出すること。

申請書ダウンロード [http://jafm.org/html/com/ken\\_doc01.doc](http://jafm.org/html/com/ken_doc01.doc) (Word 文書・52KB)

申請書ダウンロード [http://jafm.org/html/com/ken\\_doc01.pdf](http://jafm.org/html/com/ken_doc01.pdf) (PDF 文書・60KB)

連絡先：特定非営利活動法人日本家庭医療学会事務局

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F

あゆみコーポレーション内

T E L : 06-6449-7760 (学会専用)

F A X : 06-6441-2055 (あゆみコーポレーション共用)

E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)



## 三重県立一志病院 パート1(卒前教育編)

三重県立一志病院 院長 飛松 正樹

三重大学医学部附属病院総合診療部・大学院医学系研究科家庭医療学  
准教授 竹村 洋典

三重県立一志病院は、三重県津市の山間地に位置する小さな病院である。旧一志郡美杉村と白山町の約2万人が主な診療対象圏であり、外来、入院とも患者さんの多くは高齢な方々が中心となっている。急性の問題、慢性の問題、一次救急からターミナルケア、訪問診療、学校保健などを含む予防医療にいたるまで地域ニーズに合わせて幅広く対応している。

今年4月から従来の内科を「家庭医療」と名称を変更して診療を開始し、また三重大学医学部のクリニカルクラークシップとシニアレジデントの家庭医療研修も始まった。今回はクリニカルクラークシップを中心に私たちの取り組みを振り返ってみたいと思う。

当院での家庭医療研修の特徴は、学生、シニアレジデントによる診療チームと外来、入院、地域での活動を組み合わせた研修にある。学生にとって学年の近いシニアレジデントの存在は接しやすく心地よい、シニアレジデントは学生を指導することでさらに深く学ぶ機会となる。

学生の1日は、担当となった入院患者さんの診察を行うことから始まる。毎朝、ベッドサイドを訪れ診察して、その結果を自らカルテに記載し、その後シニアレジデントと所見の確認や方針について話し合う。アテンディングラウンドでは担当患者さんの短いプレゼンテーションを行う。日常的に診断、治療方針について議論が行われ、その中で学生も自分の考えを述べるのが求められる。学生の意見から方針が決まることもある。例えば、心不全のため入院し下肢筋力の低下のため今後は介護施設へ入所予定のSさんの場合、

学生：「Sさんは、自宅に帰りたがっていますが、できないのでしょうか？心不全は落ち着い

ていますし、家族が協力してくれればできると思います。」

指導医：「介護施設は家族の希望だったね。すると、家族背景や家族の考えについても把握する必要があるね。」

(夕方になって…)

学生：「先生、旦那さんとお会いして話をしました。旦那さんは、元気で自立した方ですが、とても耳が遠くてなかなか話をするのが大変でした。奥さんが急に心不全のため救急車で入院したので、また同じようなことになることも不安だということです。それに旦那さんは家事があまりできないので、奥さんの料理を作ったり介護することはできない。ましては塩分制限なんてできないといわれました。娘さんも結婚して離れて住んでいるので母親の介護を毎日することはできない。それで自宅では不安なので家族としては介護施設に入ってもらおうほうが安心ということでした。」

指導医：「家族としても心配なんだね。一度家族を含めて話し合うこととして、そのためにもSさんのADLを評価しリハビリの目標を考えておこうか。」

その後、その学生の提案もありレジデントと共に家族会議を開いた。起立困難な状態であったが、リハビリによりシルバーカー歩行可能となった。本人にとっても自宅へ帰ることがリハビリの大きなモチベーションとなっていた。食事についてはヘルパーさんにも手伝ってもらうこと、家の廊下や浴室に手すりをつけ改修工事をし、自宅退院となった。

実習終了後になったが、Sさんが無事退院し、旦那さんとともに元気に通院して来られたことを学生に伝えるとその学生は自分のことのように喜んでいた。

また、ある学生は、脳血管障害のため意思疎通が困難で、患者さんに診察しようとして手をはらいのけられた。しかし、その診療拒否こそ患者さんとのコミュニケーションを本気で考える契機となったとあとで振り返っている。しつこく毎日ベッドサイドへ足を運び、最終日にはその患者さんと笑顔で写真にうつっている姿が印象的であった。

学生に聞いてみると、医療面接、身体診察を行い、問題を抽出し、鑑別診断、検査、治療方針を考え、カルテに記載していくことは、はじめは慣れないためとまどうが、非常に楽しい経験らしい。役割が与えられることで患者さんともじっくり向き合い、患者さんとの関係が築かれることでついまたベッドサイドへ足を運んでしまう。実習期間中、患者さんのことが気になってしまうので、なんとかしたいと勉強もしたくなる。シニアレジデントが中心となり医学的な面だけではなく、家族背景や心理面社会的側面にも目を向けるように促している。クリニカルクラークシップの3週間で外来実習だけでは1人の患者さんについて深く学べないところを入院患者さんともじっくり向き合うことで補うことができている。

もちろん学生の実習は病棟のみではない。健康教室では、学生が講師を務めたことで住民にとっては親しみやすく、活気にあふれた住民参加型健康教室のきっかけとなった。外来では、発熱や腹痛、便秘、腰痛などの問題で受診する

初診患者さんを中心に、はじめに一人で医療面接、診察を行う。診察した結果をプリセプターに提示し、ともに方針を考える。三重大学総合診療部教官と当院の常勤医が学生、シニアレジデントの外来プリセプターとして指導にあたり、出会う患者さんが学生にとってはいつも初対面であるので緊張する場面である。しかし、この経験も自分の診察能力を実践する機会となり、ビデオ撮影の許可をいただいた場合には、自分の診察や態度の振り返りとなり非常に勉強になる。さらに診させていただいた患者さんに、患者満足度調査票の回答を依頼して、患者の気持ちもフィードバックされる。そのほかにも、学生は、訪問診療、採血や心電図検査、健康ポスター作成や訪問診療への同行、症例検討会でのプレゼンテーション、ミニレクチャーの実施など様々な機会も多くを学んでいる。また、学生がポートフォリオを記入することで、さまざまな気づきをして、それを指導医と共有して、学ぶことは単に知識にとどまらない。さらに、学生の存在が指導医にあらたな気づきを促し、学生にも助けられることもある。

ここは、家庭医療の実験的教育の場となっている。家庭医になるのに必要なさまざまな教育・研修の方略を試行錯誤している。それが私たちの生きがいともなっている。

今回は、三重大学家庭医療学ヘルスセンターにおける後期研修プログラムも紹介したい。



## 「生涯学習(CME)に役立つツール」特集



赤穂市民病院 一瀬 直日

今回は eMedicine の臨床クイズについてご紹介します。臨床クイズは国内外の様々な大学のホームページに掲載されていますが、定期的に更新されなければ全問解答し終わるとアクセスする気が失せてしまうものです。

そこでお薦めなのが eMedicine のように、登録されたメールアドレスに定期的に臨床クイズを送ってきてくれる形での学習です。

<http://www.emedicine.com/>

メインページの下にある eMedicine Tools の中の eMedicine CME より登録できます

臨床クイズは

- ・ 心電図
- ・ 画像診断 (単純レントゲン、CT、MRI、超音波)
- ・ 写真 (皮膚)

を選択できます。

月に 1 - 2 例ずつ送られ、ワンクリックで解答の画面が出ます。病態と一般的治療法の詳しい解説と、実際の症例の治療経過が載せてあります。もちろん臨床クイズの登録は無料。平易な英語ですし、メールボックスを開けたついでに 1 問解いてみてはいかがでしょうか。

私は 5 年前から登録していますが、特に皮膚写真は教科書で用語を知っていても実際に見たことがなかったものを多数経験できてよかったです。

是非一度お試しください。

# 患者教育用パンフレットを 作りませんか？

パンフレット作成メンバー  
**50人募集!!**

外来で、患者さんに説明するのに、  
「手ごろなパンフレットが欲しい」と  
思ったことはありませんか？  
製薬会社からもらったものを活用したり、  
インターネットで検索したり・・・  
皆様、いろいろ工夫をされているかと  
思いますが、  
「こんなパンフレットがあったらいいのに！」  
「家庭医として、これを伝えたい！！」  
と思いませんか？  
是非、同じように思っている仲間と一緒に、  
「家庭医みんなで共有できるパンフレット」を  
作成しましょう!!!



## 患者教育用パンフレット作成プロジェクトの今後の予定

パンフレット項目の選定やルール作りは現在コアメンバーで  
準備中ですので、今回は、実際にパンフレットを作成してくださる方を募集します。

1. パンフレットを作ってみたい方大募集！（年内締め切り）
2. 担当するパンフレット項目の選択・決定
3. 作成ルール（統一を図るため）に従いパンフレット作成
4. 意見交換、編集委員会にて判定、加筆修正
5. いよいよ公開へ！！

応募・お問い合わせは [jafmwg01member@gmail.com](mailto:jafmwg01member@gmail.com)

患者教育用パンフレット作成ワーキンググループ

主任：医療法人鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山 家庭医診療科 阪本直人

コアメンバー：朝倉健太郎・大西弘高・鎌田昌彦・小嶋一・齋木啓子・神保真人・高松典子・田口智博  
中村明澄・西川武彦・浜野淳・松下明・馬淵茂樹・宮崎景・矢部千鶴・湯浅美鈴・横林賢一

# 事務局からのお知らせ



## メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約 1,000 名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

### ◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

### ◎目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

### ◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をごのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

### ◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mail で申し込んでください。

- 会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）
- 氏名
- 勤務先・学校名
- メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

## 入会手続きについて

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続きについては、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

## 会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されると、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

## 異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届けをしてください。異動届けは学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛に E-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

## 編集後記

今回も夏期セミナー報告、理事会議事録など盛りだくさんの内容でした。

3学会合併に向けて家庭医療学会も動き出す中、後期研修プログラムの数も 67 と増加の一途をたどっています。今後の動向をホームページなどでまめにチェックしてください。

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局  
広報委員：

松下 明（会報担当理事）、三瀬順一

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F  
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6441-2055

E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

ホームページ : <http://jafm.org/>

